

新型コロナウイルスは5類に移行し、Zoomセミナーも少しずつリアル併用が増え、友人に会う機会も増えつつあります。どこからも参加できる便利さと刺激たっぷりのリアルの良さを再認識するこの頃です。

そこで発明研究会も、毎年みなさんが楽しみにしている無料セミナー・総会を、リアル&Zoomにしようと思います。

オンライン担当の鍵和田先生から、お誘いメールも届きますので、ぜひ参加をお願いいたします。

2023年【SAMI総会 & ミニセミナー】開催のご案内

平素は動物医療発明研究会の会員として会の運営にご協力賜り、誠にありがとうございます。今年は久しぶりに対面での総会をいたしますが、過去二年のZoom開催ノウハウも活かしたいのでハイブリッド開催形式（会場+Zoom）を採用致します。

リアルでも画面越しでも、皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

日時：10月9日（月）16:00-18:30

リアル会場

ゾエティス・ジャパン株式会社 本社会議室
（東京都渋谷区代々木3-22-7
新宿文化クイントビル14階）

Zoom会場

ミーティングID：972 5246 1847

パスコード：467654

※当日にZoomのHPにアクセス
して、IDとパスコードを入力。

QRコードから参加することも出来ます。



プログラム 1. 開会あいさつ・総会報告 2. セミナー①
3. セミナー② 4. 懇談 5. 終了後懇親会

講演予定演目：

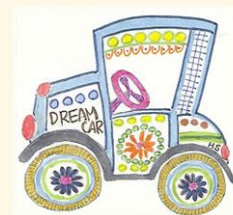
①【発明の仕方その2応用編】 岸上義弘先生（岸上獣医科病院）

2019年6月に行われた総会でお話頂いた「発明の仕方その1」の続きとのことです。

2020年SpringのSAMI NEWSにも岸上先生のコラムが掲載されていますので、お手元に残っておられましたらぜひ見返してみてください。

②【ウサギ・チンチラ・モルモット・デグーの麻酔下臼歯切削における私の工夫】
戸崎和成先生（アンドレ動物病院）

エキゾチックアニマルの診療分野で多数の学会発表・ご執筆がある先生から貴重なテクニックを教えてください。



ご参加予定を
お知らせ
ください！
（8月末頃まで）

☐参加（リアル会場）

☐参加（Zoom会場）

☐不参加

動物医療発明研究会 事務局

〒230-0061 横浜市鶴見区佃野町3-3

清水動物病院内

TEL：045-583-3738、FAX：045-583-3594

Mail: 2021hatsumeiken@gmail.com

動物検疫所で活躍する獣医師（公務員獣医師編 Part1）

インタビュアー 動物医療発明研究会 広報部長 獣医師 伊藤 隆

前回は、海外で活躍する獣医師を紹介いたしましたが、今回は、公務員分野で活躍されている獣医師の第1回目として海外からの家畜の伝染病の侵入防止を図っている動物検疫所を紹介いたします。動物検疫所の中でも職員数が最大規模の支所である成田支所の鎌川支所長にインタビューを行いました(写真1)

1. 動物検疫所成田支所の主な業務の内容及びアピールポイントは何ですか？

- 1) 私共の業務の最も重要な目的は、動物検疫を通じて海外からの家畜の伝染病の侵入防止などを通じて、我が国の畜産の振興に寄与することです。もう1つが、犬猫やサルなどの検疫を通じて狂犬病やエボラ出血熱などの人の感染症の侵入防止を図り、公衆衛生の向上に寄与することです。

成田支所での業務を具体的に説明すると、まずは、家畜伝染病予防法に基づき、旅客の持ち込む携帯品、生体動物、貨物畜産物等を介して家畜の伝染性疾病が国内に侵入することを防止する検査業務です。

また、我が国から輸出する畜産物や動物についても伝染病をひろげるおそれのないものを輸出し、国際信用を高めることも重要な業務の1つとなっています。特に農林水産物・食品の輸出促進を政府として積極的に推進していますので、安心な畜産物輸出を通じて農家を支援することも大切な業務となってきています。

以前、日本国内でコイヘルペスが問題にされたことがありましたが、これを契機に、2007年10月より、水産資源保護法に基づき金魚やコイなどの輸入検査も動物検疫所が担うようになっていきます。

さらに、国内で豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどが発生した場合、発生農家で殺処分を行うことになるわけですが、県からの要請に応じて職員を派遣し、防疫活動を積極的にサポートすることも重要な業務となっています。

- 2) アピールポイントとしては、やはり私どもが行っている水際といった日本の玄関口で、伝染病の侵入阻止を目的とした業務は、生産者の方々を含めた国民からも感謝及び期待されている業務であるため、大変やりがいを感じる事ができる業務です。最終的には、特に口蹄疫やアフリカ豚熱等の越境性動物疾病の国内発生を効果的に抑止するため、動物検疫所と国内における地域防疫や農場防疫を担う県関係者や生産者との連携や交流も大切にしています。

2. 鎌川支所長が、動物検疫所を含めたこれまでの役所での勤務経験の中で、特に印象深い出来事や経験などは何ですか？

数え切れないほどの思い出がありますが、2つほど挙げさせていただきます。

先ず1つ目は、私は昭和63年に農林水産省に入省し、振り出しは横浜の動物検疫所の動物検疫課という生体動物の輸出入検査を担う部署に配属になりました。私たちが行う検査の結果次第で輸入の可否が決まり、他人の財産を左右するというので、先輩方からは、動物への接し方から採血や検査でも丁寧かつ正確に行うべきということで、非常に厳しく教育されたことを思い出します。すなわち「手抜きをするな。」といった教えが、私の役人人生の中でずっと染みついていた。

2つ目はフランスの国際獣疫事務局(通称、“OIE”)という動物・畜産物の国際貿易に関する国際基準作り、動物疾病の科学的知見や伝染病発生情報の加盟国への提供等を担う国際機関で、当初は2年間の予定で派遣されましたが、1年延長されて計3年間勤務しました(2001年7月～2004年7月)。

私は、国際貿易部(International Trade Department)という部署に配属になり、最初はフランス人で、次にオーストラリア人の上司の下で働きました。ここでの1つの重要な業務として、加盟国による選挙で選ばれた数名(6名)のメンバーから構成された国際動物衛生規約委員会(通称、“コード委員会”)で議論して国際基準の原案を作成するのですが、その委員会運営のための事務局としての業務を行いました。ここで作成された原案は、毎年、各加盟国の首席獣医官(CVO: Chief Veterinary Officer)が参加する総会に提示され、そこで採択されたものが国際基準、いわゆるOIEコードとして位置づけられることになります。語学には大変苦労しましたが、各国の獣医官と実に多くの交流を深めることができとても有意義でした。あと単身赴任でしたので、家族が来たとき、又は現地の友人と共に各フランスの地方へ出かけました(写真2、写真3)。実に様々な地方にも出かけ、現地のフランス人とのふれ合いや現地での食事を通じてフランス文化を肌で感じる機会を得られたことは何物にも代えがたい経験でした。



写真1 左 鎌川支所長 中央くん
右 筆者



写真2
家族とChamonix-Mont-Blancにて



写真3 ノルマンディー地方の港町Honfleur

3. 動植物検疫探知犬について

1) 動植物検疫探知犬はどういった目的で導入されたのでしょうか？

2001年に英国で口蹄疫の発生があり、アイルランドやフランスなどの欧州他国にも飛び火して大きな損害を出しました。その発生要因に畜産物の違法持込みが挙げられていました。このため、検疫探知犬といった犬の存在が注目され、導入に向けて検討が進みました。検疫探知犬が、我が国で最初に導入されたのが、最大の入国者数を抱える成田空港でした。2005年(平成17年)に2頭の畜産物を探知する探知犬が当支所に配置されました。さらに、2012年度(平成24年度)には、現在のような果物や野菜も探知する動植物検疫探知犬が初めて羽田空港に導入され、以後は動植物検疫探知犬の導入が続いています。現在のところ全国に140頭の動植物検疫探知犬が配置されています。優れた嗅覚により、入国者が持ち込む手荷物を開梱することなく、検査対象物を効率的に見つけてくれる非常に優秀な検疫ツールとして活躍してくれています。

2) 動植物検疫探知犬になるための条件は何ですか？

要件としては、公的検疫機関(国外を含む。)に検疫探知犬を供給した実績がある訓練機関で、探知犬の育成が可能であると認められた「認定探知犬訓練士」が育成・訓練した犬であることです。最終的に動物検疫所にて能力確認試験を行い、合格したものを導入しています。

3) 日々の探知水準を維持するためにどういった訓練を受けているのでしょうか？

普段の訓練は、対象品のみが入った箱と入っていない箱とをかき分けるといった簡単なものから、対象品とそれ以外の物が一緒に入ったスーツケースや箱から対象品を見つけるという実働を意識した訓練など様々あり、訓練はその時の当該犬の課題に合わせてハンドラーが内容を考えて取り組んでいます。

4) どういった犬種を動植物検疫探知犬として用いているのでしょうか？

犬種は、ビーグルとラブラドルレトリバーです。ラブラドルレトリバーは、主として国際郵便物検査などの比較的体高の高い方が検査しやすい部門で活躍しています。旅客の検査は、大部分がビーグル犬です。ビーグル犬はスノーピーのモデルとも言われており、ルックスがかわいいため、乗客に威圧感を与えないと言ったメリットがあります。嗅覚に優れていて、においを嗅ぐことが大好きで、素直で、利口であるということで探知活動には向いています(写真4)。

4. 生体動物の検疫について

1) 成田支所での主な検疫実施動物は？

家畜では軽種馬(乗用が主、その他競走用、繁殖用)と繁殖用豚です。

愛玩用は犬、猫、他(うさぎ)です。その他の動物として、試験研究用サル、金魚です。

2) 馬等の生体動物の検疫を行う上で気を遣っていること、苦労している点は何ですか？

- ・ 競走馬などは、非常に高価なものが輸入されるため、検疫期間中の検査行為等に起因したケガの誘発防止(大きな音を立てないなど)などには気を遣っています(写真5)。
- ・ 馬は具合が悪いことを隠すことも多いため、表面上の表情のみで判断しないようにしています。すなわち、臨床症状はもちろんのこと、その馬の世話をしている管理人へ聞き取りや精密検査の結果も加味して総合的に判断しています。



写真4 動植物検疫探知犬

- ・ 繁殖用豚の輸入は、豚熱の国内発生による円滑な種豚調達ができない環境下にあつて、国内の育種改良の観点から必須であり、国内の豚熱の流行が収まらない中、野生イノシシの生息する周辺環境にも警戒し、係留期間中のバイオセキュリティ強化にも気を配っています。

3) 珍しい動物の輸入はありますか？

2022年は、ニュージーランド産のアルパカ(愛玩用)の係留を行いました。

また、2016年に、スカンクの輸入検査を行いました。

4) 輸入検疫で特に警戒している疾病は何ですか？

下記の疾病について特に警戒しています。

動物種	疾病名	備考
馬	馬インフルエンザ	届出伝染病
	馬鼻肺炎	
	馬伝染性子宮炎	
	馬ウイルス性動脈炎	
豚	豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫	法定伝染病。国際的には越境性動物疾病。
犬・猫	狂犬病	1958年以降、国内動物での発生なし。
うさぎ	野兔病、兎ウイルス性出血病、兎粘液腫	届出伝染病

5) 伝染病発生時の対応に参考となる疾病関連の海外のバイブルのような本や資料はありますか？

OIE診断マニュアル(Manual of Diagnostic Tests and Vaccines for Terrestrial Animals)日本語に訳すと「陸生動物の診断及びワクチンに関するマニュアル」を、適宜、活用しています(写真6)。

5. 旅客の携帯品検査等の水際検疫対応について

1) 携帯品検査の目的や必要性は何ですか？

違法に持ち込まれる畜産物を介して、アフリカ豚熱(ASF)や口蹄疫などの我が国畜産に大きな影響を及ぼす伝染病が侵入することを防止するために行っています。特に、どのようなリスク管理が輸出国側で行われているのか不明なものであり、実際に旅客から摘発された豚肉製品からASF遺伝子や感染性のあるウイルスそのものが分離されているため、この部分のリスク管理は極めて重要であると認識しています。

2) 特に侵入を警戒している疾病や国は何ですか？

現在、特に警戒している疾病は、ワクチンによる予防ができず、治療法もないアフリカ豚熱の侵入を最も警戒しています。また、当該疾病はウイルスそのものの環境抵抗性が強く、冷蔵豚肉では数か月、冷凍品では数年の間、感染性を保持しているため、畜産物によることが疑われる長距離離れた場所での発生事例も報告されています。警戒している国は、2018年に中国での発生が報告されて以降、中国、韓国、ベトナムやフィリピンなどの本病の発生国/地域からの畜産物の違法持込みに最大限の警戒を行っています。

6. 動物検疫所を希望する獣医大生についてのメッセージ(学生時代に準備しておくべきこと等)があったらコメントをお願いいたします(成田支所の若手職員からの聴き取り)。

1) 学生時代に勉強したことが役に立った点

- (1) 感染症学や寄生虫病学の知識は特に役立ちました。疾病についてしっかり理解していると、輸入者への説得力も増し対応しやすくなると思います。
- (2) 犬の輸出入検査の時などでは、輸出入者において検査官が獣医であるとわかると、動物についていろいろなことを相談されたりするため、大学で学んだことで予想外なことが役に立つことがあります。

2) 学生時代にもっと勉強しておけばよかった点

- (1) 是非、実習に行くことをおすすめします。動物検疫所以外にも、他の地方自治体や病院など気になるところは実習に行くといいです。自由に見学活動できるのは学生のうちで、就職してからは見学に行きたくても簡単には見に行けません。
- (2) 感染症学や寄生虫病学は知識があればあるほど困らないので、大学の試験対策等に必要な内容だけでなく、もっと深く勉強しておけばよかったと思うことはあります。
- (3) 獣医学の知識ではないのですが語学の研鑽は、旅客の携帯品検査カウンターでは、外国人相手なので英語を使わなければならないときが多いです。英語以外の言語の勉強、特に中国語や韓国語は習得していると役に立つ機会がたくさんあると思います。
- (4) 病気の原因の追及という点で病理ができる人も重宝されるイメージがあります。



写真5 馬の検疫風景

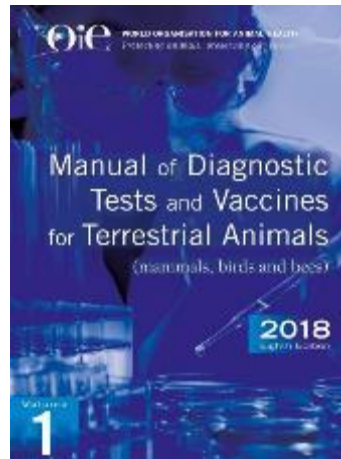


写真6 OIE診断マニュアル

編集後記

今回、動物検疫所の中で職員数が最大規模の支所である成田支所を訪問いたしました。旅客に対する検査対応の取り組みとして、広報活動にも力を入れており、具体的には、航空会社への啓発協力依頼、SNSによる発信、領事館への啓発資料の配布依頼などの地道な活動を行っているとのこと。また到着後の対応としては、靴底の消毒をするマットが設置されており、海外の検疫所の人からも感染防止の観点から高い評価を受けているとのこと。

今、「ワンヘルス」One Health～人と動物の健康と環境の健全性は一つ～と言い始められてきています。

令和4年(2022年)11月には、「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとして、国内外の獣医師等が参加する国際会議「第21回アジア獣医師会連合(FAVA)大会」が福岡市で開催され、FAVA加盟獣医師会および所属する獣医師による、ワンヘルスの実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信するための方針を表明した「アジアワンヘルス福岡宣言2022」が採択されました。

その中には、「新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の予防及びまん延防止に万全を期すため、感染源、感染経路及び宿主対策についての調査・研究体制を整備するとともに、情報の共有に努める」という項目が含まれています。

普段何気なく空港を利用しておりますが、海外悪性伝染病の侵入を水際の段階で未然に防いでいる動物検疫所の職員の方々に改めて敬意を表したいと思いました。

【新入会員の自己紹介】



戸崎 和成(とざき かずしげ)

アンドレ動物病院 栃木県宇都宮市

*プロフィール

私は三重県志摩市(ちょっと前まで志摩郡でした)という田舎で大工の父と理容師(床屋)の母の息子として生まれ、ぼんやりとした幼少期を過ごしました。生家は今話題の待ち時間0分のテーマパーク「志摩スペイン村」の近く、伊勢志摩サミットで各首脳が宿泊した賢島の近くの町で、真珠イカダが浮かぶリアス式海岸で産湯につかりました。

1989年(4+2制最後の年)に北里大学を卒業し、都内の動物病院に勤め、その後学生時代からの付き合いだった1学年下の戸崎啓子さんと結婚し、1995年に嫁の出身地である宇都宮市で嫁の両親の援助をいただき開業させていただきました。病院名はもともとの自分の名前でない戸崎をつけることに抵抗もあり、「アンドレ動物病院」としました。(嫁はいつでも旧姓に戻しても構わないと言っています)「アンドレ」は学生時に嫁が飼っていた猫の名前ですが、その由来は私が大好きだったプロレスラーの「アンドレ・ザ・ジャイアント」で私が命名しました。アンドレ・ザ・ジャイアントの話は残念ながら今回省略致します。

当時はインターネットも一般的ではなく、タウンページぐらいしか広告がなくて「ア」から始まることによる掲載順が上位なだけで、それ以外の深い意味はなく、ほとんどインパクト勝負の名前でしたが、「アンドレ」はすぐに憶えてもらえて、かなりのインパクトだと自負していました。

営業で来院する方々は病院名の由来を必ず聞いてきますので、10分間は話を持ち上げられます。当時は名前か地名由来の病院名がほとんどで「へんてこりんな名前の病院」は少なかったかと思います。(現在のカタカナ病院の名前が「へんてこりん」と言っているわけではありません)ところで、生家の母がやっていた床屋の店名は「美空理容所」というのですが、若い頃父に「なぜ美空なの？」と聞いたところ、「人気がある美空ひばりさんの名前にあやかった」と言っていたことを開業後だいぶ経ってから思い出し、「アンドレ」とまったくコンセプトが同じことに気づき、その遺伝性と幼少期に近所の人々から「美空どこやの息子」と呼ばれていたのに、自分が床屋の息子であることを忘れ、親への感謝を忘れ、故郷を捨て、名前を捨て、うぬぼれていた自分に気づき愕然としました。

また、最近、薬品問屋の従業員(未婚の青年)に、「戸崎先生は奥さんに頭が上がらないって、他の先生が言っていました。」と冗談交じりで言われましたが、「ちゃうちゃう！ 私は嫁に頭が上がらないじゃなくて、自ら頭を上げないんだよ！」と返答し、言葉を発しながら年を重ねて生意気になる自分を戒め、反省し、実る稲穂になるべく嫁にも頭を垂れています。(どこのご夫婦も同じかと思いますが・・・)

開業後は栃木県獣医師会に入会させていただき、会員の皆様に仲良くしていただいております。また、日本獣医エキゾチック動物学会理事をさせていただいており、会員の皆様や理事仲間と仲良くさせていただいております。

16年前から市内の動物看護師専門学校にてエキゾチック動物学の講師をやらせていただいております。「何とかいい授業を！ 生徒の記憶に残る授業を！」と毎年改良を重ね努力しておりますが、自分が学生時に行ってきた悪行(寝ること)の報いを16年間うけ続けております。(因果応報)講師をやらせていただいて教えることを学んでいることはもちろんですが、生徒が興味をもって勉強してくれた喜びを知りましたし、今まで何人かの素晴らしい師に自分は出会っていたことに気づかせていただきました。

*病院紹介

現在の来院動物の件数割合は 犬 30%、猫 30%、その他 40%でその他はウサギ、フェレット、ハムスター、小鳥、チンチラ、モルモット、デグー、ハリネズミなどです。エキゾチック動物診療は開業以来、取り組んできたことでたくさんの方に来ていただいております。

ます。現在はスタッフ総数 12 名で獣医師 5 名、看護師 7 名です。
「いい仕事をする」をモットーとしております。

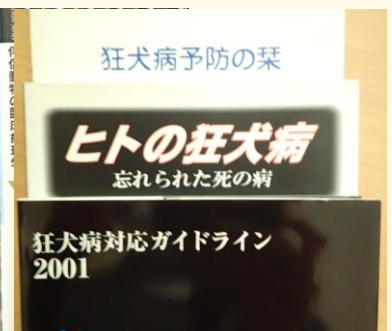
*過去の発明・アイデア・取り組んでいること

ウサギ、チンチラ、モルモット、デグーは切歯・臼歯ともに伸び続け、異常な方向への伸展により食欲不振になることが多いのですが、特にチンチラ・モルモット・デグーは当初なかなかうまく治療できなくて、助けられなくて、ふがいなく思っていました。
現在は麻酔下で過長歯をしっかりと切削する方法を試行錯誤して、方法はかなり熟してきました。満足のいく処置ができるようになった理由の一つに自分がデザインした開頬器（戸崎開頬器：シンメディコ製）を製作・販売していただいたことが挙げられます。それらを使った切削方法を商業誌に投稿したり、日本獣医エキゾチック動物学会で講演させていただきましたが、今もバージョンアップをしています。この切削方法で試行錯誤した内容は、後から聞けばたいしたことないことが多いのですが、たどり着くまでに思考やひらめきが必要で、また発表することで、より洗練され、工夫することにより、施術した動物にすぐに成果が見られ楽しい作業です。今後も臼歯切削方法の改良・洗練を突き詰めていきたいと思っております。
以上です。よろしくお願いいたします。

使用済み本・ビデオ差し上げます：送料のみ着払い



ご希望の方は、佐藤 剛まで
TEL 048-955-5576



動物医療発明研究会のホームページできています。登録もできます。

会員の病院・施設名、〒、住所、TEL、FAX、ホームページURLを掲載します。

ご希望の場合は、件名に「SAMI-HP掲載希望」と明記して、下記のメールにお願いします。

hp@ispecial.co.jp (株)アイ・スペシャル運営受託



SAMI NEWS 65号

発行日 2023年8月

発行所 動物医療発明研究会事務局

発行人 会長 清水 邦一

事務局 230-0061横浜市鶴見区佃野町3-3

清水動物病院内 清水宏子

TEL(045)583-3738 FAX(045)583-3594